

ごあいさつ

2019年4月1日付で尾道市病院事業管理者に就任いたしました。就任に当たり一言ご挨拶申し上げます。尾道市病院事業である尾道市立総合医療センターには、公立みつぎ総合病院および保健福祉総合施設、尾道市立市民病院および尾道市立市民病院附属瀬戸田診療所があり、市民の皆さまの健康、福祉の増進を担っていることに対し、病院事業管理者としての重責に身の引き締まる思いを感じております。

私は、1953年尾道市原田町の生まれで、高校まで尾道で過ごし、1980年に岡山大学医学部を卒業しました。卒業と同時に岡山大学麻酔学教室に入局し、麻酔科学および集中治療医学に従事してまいりました。生まれ故郷である尾道には1992年4月に麻酔科医師として尾道市立市民病院に着任し、主に周術期管理および救急医療に携わってまいりました。また、2016年4月からは尾道市立市民病院院長として3年間お世話になり、このたび尾道市病院事業管理者として尾道市立総合医療センターに関わらせていただくことになりました。

公立みつぎ総合病院は、尾道市立市民病院とともに尾道地区の中核病院であり、急性期医療、救急医療を担うとともに、山口昇名誉院長、相談役・顧問が日本で最初に「地域包括ケアシステム」として提唱、実践された保健・医療・介護・福祉の連携による地域ぐるみのケア体制が作り上げられており、日本の地域包括ケアシステムのモデルとなっています。この優れた特徴は、公立みつぎ総合病院を中心にした御調町のまちづくりに活かされており、すでに十分な実績もあります。これからも、沖田院長のリーダーシップのもと、さらに発展するよう全面的にバックアップする所存であります。

しかしながら、国の医療費抑制政策や医師不足等により、現在の医療を取り巻く環境は非常に厳しく、さらに、働き方改革や消費税増税等の問題も山積しており、在籍しているスタッフの地域医療に対する熱意に頼るだけでは、地域医療の崩壊が危惧されるまでに至っております。より良質の医療を提供し続けることが病院事業の使命であり、一致協力して医療崩壊の危機を乗り越えたいと思いますので、地域の皆さまの更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



尾道市病院事業管理者
突 沖 満 則

「人生の初めにつけるおむつは当然であるが、年老いておむつの世話になることは最後の侮辱であると考える人が多い」
これはイギリスの看護師、C. サドラーの言葉です。

◆排泄とは人間の尊厳である

日常生活における「自立」とは、

1. 口から食べる
2. トイレで排泄する
3. 体が動く
4. ぐっすり眠る

の4つで、これは人間が人間らしく生き続けるための必要最低限の生理的欲求です。このうち、排泄障害は加齢に伴って多発する老年症候群といえます。特に、後期高齢者においては「ちかい」「もれる」「出ない」の排尿障害と「便秘」の排便障害が増えてきます。そして排泄トラブルに直面した高齢者は、「生活の質」が低下します。(表1)

表1 排泄トラブルによって日常生活で減ったこと

自分の健康に関する自信	32.4%
睡眠の時間や質	23.4%
外出する意欲	14.4%
自分らしくいきいき暮らしたいという意欲	14.4%
おしゃれや趣味(好きなこと)をする意欲	13.8%
人づきあいに対する意欲	12.0%
運動(体を動かすこと)への意欲	11.7%
仕事に対する意欲	9.5%
食事への意欲、楽しさ	8.6%

(出所：ユニ・チャーム株式会社)

排泄トラブルのある高齢者は羞恥心にさいなまれたり、自己嫌悪におちいったりし、やがて閉じこもりがちとなって自立への意欲を失ってしまうこともあります。

◆排尿自立指導料

平成28年度の診療報酬改定で入院患者に対して、病棟看護師と専門的知識を有した排尿ケアチームが連携して包括的な排尿ケアを実施した場合に、排尿自立指導料が算定できるようになりました。当院でも排尿ケアチームを立ち上げ、活動を行っています。当院の排尿ケアチームは、泌尿器科医師1名、専任看護師1名、理学療法士3名、病棟リクナース5名、薬剤師1名からなり、毎週1回の病棟ラウンド、毎月1回の事例検討会、年1回の全体研修などを行っています。

No.44

包括的排尿ケア



泌尿器科部長
上 田 光 孝

◆包括的排尿ケア

排尿自立指導の中心となる包括的排尿ケアは、看護計画、リハビリテーション、薬物療法、泌尿器科による精査・治療によって構成されています。（表2）

表2 包括的排尿ケア

留意する項目			計画の内容
看護計画	排尿自立		排尿用具の工夫、排尿しやすい姿勢の工夫、衣類の工夫、トイレ環境の工夫、移動・排尿意欲への支援、寝具の素材への工夫
	下部尿路機能	頻尿・尿失禁	生活指導、膀胱訓練、骨盤底筋訓練
		尿閉／排尿困難	間歇導尿、自己導尿／間欠式バルンカテーテル
		尿意の問題	排尿誘導、超音波補助下排尿誘導法
リハビリテーション			運動機能訓練（関節可能域拡大、座位保持、排泄に関する動作訓練）、動作にあわせた補助用具の選択・環境整備。解除方法の工夫
薬物療法			排尿機能へ影響を与える薬剤の検討 適切な薬剤の選択と処方 有熱性尿路感染症への抗菌薬の処方
泌尿器科による精査・治療			画像検査、尿流動態検査

（日本創傷・オストミー・失禁学会編 平成28年度診療報酬改定「排尿自立指導科」に関する手引き 照林社 2016より抜粋）

排泄トラブルは薬物治療のみでは解決できません。「排泄障害とはトイレが使えない障害」と定義することもできます。「排泄」するためには自分でトイレに行き、下着を下げて便座に座る、そして「排泄」が終わったら立ち上がって下着を上げる。こういうトイレ動作がうまくできないことが原因でおむつに排泄せざるを得ない状況に追い込まれてしまう高齢者はたくさんいます。

排泄トラブルのある人に対して薬物療法だけではなく、看護、リハビリテーションの立場から積極的にかかわっていくことが、包括的排尿ケアです。

看護師はポータブルトイレや収尿器具、排尿しやすい姿勢や衣類の工夫、トイレに近い居室やトイレまでの経路の障壁の除去、移動・排尿意欲への支援などの環境調節や排尿行動の介助を行います。理学療法士や作業療法士は排尿動作を自力でできるように運動機能訓練や動作に合わせた補助用具の選択を行います。これらに薬物療法や泌尿器科的治療を組み合わせています。

現状では排尿自立指導料は急性期病棟しか算定できませんが、包括的排尿ケアは急性期病棟よりも回復期・慢性期病棟でいっそう重要であることは明らかです。排尿指導に対するエビデンスを確立することによってこれらの地域包括病棟や回復期リハビリ病棟でも指導料の適応が広がると考えられます。

リハビリ
テーション
センター

心も身体も元気に多方面からサポート

保健福祉総合施設附属リハビリテーションセンター（有床診療所）は、入院（ベッド数 19 床）・外来患者さまに対し、診療及びリハビリテーションを行っています。急性期の医療機関からの継続したリハビリが必要な方や、在宅・施設で生活機能面の低下が見られる方などが入院し、午前・午後と理学療法や作業療法（手芸や工芸など）、言語療法（言葉の訓練）など個々の状態に合わせて短期集中的にリハビリが行われ、入浴や食事動作などの日常生活がスムーズに行えるよう、あらゆる側面からチームでサポートしています。

リハビリを毎日頑張っておられる患者さまに一息していただけるよう、今年の春には花見を行い、桜の木の下で、お茶を飲み音楽を楽しんでいただきました。これからも、患者さまが入院された時よりも、心も身体も元気になって在宅や地域に復帰していけますように職員一同努めてまいります。



みつぎの苑
「認知症棟」

中庭の手入れなら任せんさい！

介護老人保健施設みつぎの苑認知症棟には大きくて温かい中庭があります。

朝も昼も夕も中庭で落ち葉を掃き掃除。「ええよ。これくらいなら任せんさい！」中庭では、季節ごとの野菜や花



を育てています。利用者さまは誰よりも早く成長や異常に気が付き、手入れを

してくださっています。天気の良い日には中庭で日向ぼっこ。

いつでも手入れの行き届いた居心地のよい中庭をありがとうございます。皆さんも是非、中庭を見に来てください。



グループホーム
かえで

「かえで」春の畑仕事

グループホーム「かえで」では、畑や庭を利用して、季節の野菜や花を育てています。今回は、入居者さまと一緒に、かぼちゃの苗とマリーゴールドを植えました。昔と同じように慣れた手つきで植えていけます。「おいしいかぼちゃができるかな。」「きれいな花じゃね。」などと会話も弾みます。できた野菜は「かえで」の食卓に上ります。窓から見える庭のパンジーやチューリップ、あじさいなどの花々や、ナスやキュウリ、トマトなどの苗は「かえで」の生活に色どりを添え、入居者さまの心を和ませてくれます。

今後も、日々の生活の中に季節を感じられるよう、入居者さまと一緒に野菜や花を育てながら笑顔と楽しみのあるグループホームにしたいと思います。



さわやか健康教室へのお誘い

開催場所：5階講義室にて14時から開始

当院では、最近注目されている病気などを取り上げ、その予防法・最新の治療法など皆様にごできるだけわかりやすくご紹介するために、さわやか健康教室を開催しています。**無料**ですので、どなたでもお気軽に参加していただけます。令和元年度の予定をご案内いたします。都合により、講師及び演題等を変更する場合がありますので御了承ください。

月 日	演 題 名	講 師
令和元年 9月 11日 (水)	検査について	臨床検査技師・健康管理部医師
10月 9日 (水)	リウマチの話	内科 山本医師
11月 13日 (水)	在宅 NST 勉強会	管理栄養士
12月 11日 (水)	音楽療法	音楽療法士
令和2年 1月 8日 (水)	リハビリの話(転倒など)	リハビリ科 片平医師
3月 11日 (水)	頻尿について	泌尿器科 上田部長
4月 8日 (水)	軽度認知症	河原看護師
5月 13日 (水)	脱水の話	内科医師

リハビリスタッフ・管理栄養士によるワンポイントアドバイスもあります。

CT・MRI 装置を新しくしました

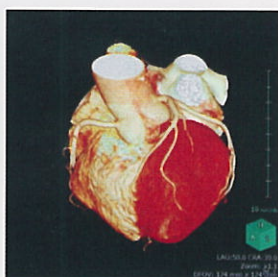
放射線科

CT装置の特徴

一回の撮影で同時に複数の輪切り像が得られ、胸部から腹部まで約5秒の息止めで撮影できるようになりました。また造影剤を使用した撮影では脳血管や胸腹部の血管・心血管など精密な3次元画像を得ることができます。



脳血管CTA



心臓3D-CT

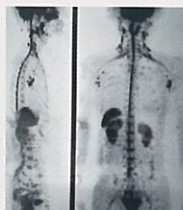


全身用コンピュータ断層撮影装置
GEヘルスケア製
Revolution EVO(64列)

MRI装置の特徴

強い磁石と特殊な電波の力により、人体内部の構造を鮮明に見ることができる最新の医療用画像診断装置です。

この検査はベッドに寝ているだけで体の向きを変えることなく様々な断面の撮像が可能で、頭部領域の小さな疾患や整形外科領域、腹部領域など全身各部位の診断に役立ちます。この度の更新では体動補正が強化され、頭部や腹部領域など動きのある部位でもよりきれいな画像が得られるようになりました。



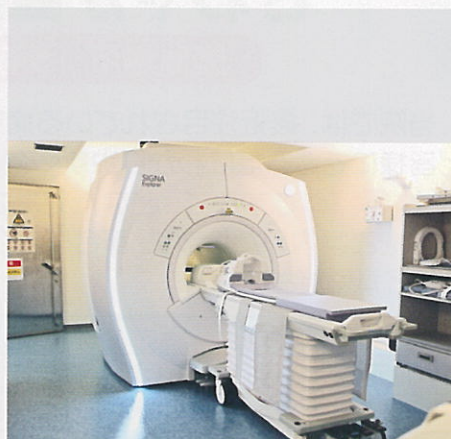
全身DWI(DWIBS法)



MRCP(MR胆管膵管撮影)



腰椎MRI



超伝導磁石式全身用MRI装置
GEヘルスケア製
SIGNA Explorer
(静磁場強度1.5テスラ)

けんこう 健幸わくわく21

「健幸わくわく21」は、健康づくりに加え、地域づくりも視野に入れ、幅広い観点から地域の方と交流を深める講座です。公立みつぎ総合病院医師、歯科医師、研修医、看護師、歯科衛生士、薬剤師、管理栄養士、療法士、相談員、北部地域包括支援センター職員、保健師などが地域に出向き、中高齢者を中心に若年層・学生までを含む全年齢を対象とした講座を行います。

多くの方々の参加をお待ちしています。

令和元年度 実施予定振興区

地区名	振 興 区 名
菅 野	大塔・平木 菅
上川辺	大蔵・白太・中原 本
市	貝ヶ原 江田・国守
河 内	入江・倉南・倉北
今津野	福井・津蟹東・津蟹西・津蟹北・福丸 本郷・川西・上田
綾 目	山岡 公文西・公文東 沖綾目
大 和	大山田・畑・小猿・下山田
その他	保育所 小学校 など

上記以外にも、出前講座のご要望があれば、御調保健福祉センターまでお気軽にご相談ください。



【問い合わせ先】 御調保健福祉センター
TEL : 0848-76-2235 FAX : 0848-77-0033

人間ドックを受診しましょう!

当院の人間ドックでは、皆さまの健康を増進し発病を予防するとともに、病気の早期発見・早期治療を目指して、総合的な健康支援を行っています。

人間ドックは1日ドックと2日ドックの基本検査項目に加え、脳ドックなど各種のオプション検査を用意しています。

受診日当日に医師による健診結果の説明と保健師による保健指導を全員に実施しています。また、健診後のフォローで継続的な関わりを持たせていただいています。

皆さまの満足と安心を大切に、スタッフ一同笑顔でお待ちしています。



ラウンジ



公立みつぎ総合病院は「人間ドック健診施設機能評価認定施設」および「日本人間ドック学会保健指導実施認定施設」です。

●人間ドック理念

私たちは当病院の基本理念を踏まえ、安心できる良質の包括的な健康支援を通じて、地域社会に貢献します。

●人間ドック基本方針

1. 疾病の予防と早期発見・早期治療をめざして、総合的な健康支援に貢献します。
2. 自己研鑽に励み、高い知識と技術を習得し、健診の精度・質の向上を実現します。
3. 健康長寿に向けた生活習慣改善を支援するため、全力を尽くします。
4. 受診者の満足と安心を得られるよう、心の通った継続的なサービスを提供します。
5. 皆様の人権を尊重し、個人情報の保護に十分配慮します。

●受診コース一覧

	健診日	所要時間	昼食	料金(税込)※
日帰りドック	月～金	午前8時20分～午後2時頃まで	あり	35,640円
1泊2日ドック	月・木	午前8時20分～翌日の午後1時頃まで	あり	57,780円
脳ドック	水・金	午後1時～午後3時頃まで	—	33,480円
日帰り+脳ドック	月～金	午前8時20分～午後2時頃まで	あり	59,400円
1泊2日+脳ドック	月・木	午前8時20分～翌日の午後1時頃まで	あり	78,300円

●上記の健診料金は、全額自己負担で受診した場合のセット料金です。

・お申し込みの団体（保険者や事業所）によっては、検査内容が一部異なる場合があります。

健診費用や助成（補助）についても、お申し込みの団体にお問い合わせください。

・1泊2日コースの宿泊料金は健診料金に含まれています。

・その他各種オプション検査をご用意しています。お気軽にお問い合わせください。

※上記の健診料金は平成31年4月1日現在の料金です。消費税率が変更された場合、消費税率変更後に実施した健診の料金は変更後の消費税率を適用します。

人間ドック・健診のご予約、お問い合わせ

公立みつぎ総合病院 人間ドック健診受付 TEL: 0848-76-1111(代表)

職員紹介

公立みつぎ総合病院で医事課の職員として勤務し、今年で3年目を迎えました。

私が働く医事課では、病院に来られた患者さまの窓口としての業務だけではなく、病院の収入の源である診療報酬の請求や、国に届出して認められた施設基準の管理なども行っております。まだまだ知識・経験が浅く、至らぬ点も多いですが、先輩方や他職種の方の丁寧なご指導のもと、日々貴重な経験を積ませていただいております。

患者さまやご家族がより快適に不安なく病院をご利用できるよう、これからも患者さまのことを第一に考え、信頼される医事課職員となれるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



主事
幸下 尚也

みつぎの苑一般棟に勤務し一年になります。最初は不安がありましたが、先輩方をはじめ、利用者さまやそのご家族と接していく中で、次第に打ち解けて楽しく自分らしく働かせていただいております。

今後も利用者さまの笑顔を大切にすること、そして、生きてこられた歴史を尊重しながら、自分らしく暮らしていただけるよう、スマイル&スマイルで介護をしていきたいと思っております。

まだまだ未熟ではありますが、知識やケアの実践をしっかり吸収し、経験を更に積み重ね貢献できるよう頑張っています。

今後とも、多方面でのご指導よろしくお願いいたします。



介護福祉士
坂口 博志

公立みつぎ総合病院に就職して2年目を迎えます。回復期リハビリテーション病棟に勤務しています。

1年間働かせていただき、患者さまそれぞれ身体状況はもちろん、生活状況や環境等も様々であり、多くの視点が必要であることを実感しました。そのため悩むことも多いですが、患者さまの笑顔が見られた時はとてもやりがいを感じます。また、回復期病棟はリハビリスタッフだけではなく他職種との距離も近く、先輩方から毎日たくさんのことを学ばせて頂いております。

まだまだ未熟ではありますが、今後たくさんさんの事を学びながら、患者さまに寄り添える作業療法士になれるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



作業療法士
田村 菜々穂

公立みつぎ総合病院に入職し16年目になります。病棟、訪問看護を経験し、昨年10月から特別養護老人ホーム「ふれあい」で勤務しています。特別養護老人ホームでは、利用者さまの健康状態を常に把握し、病状によっては公立みつぎ総合病院と連携し対応をしています。どこで勤務していても感じるのは、他職種との連携の大切さです。

一人ひとりの患者さま、利用者さまが、心豊かに生き生きと、その人らしく生活していけるよう、安全で明るい環境づくりに努めています。看護の専門職として、これからも日々勉強をしていきたいと思っております。今後よろしくお願いいたします。



看護師
菅原 真由美

訪問看護ステーション「みつぎ」

～24時間・365日安心を支える
訪問看護サービス～

訪問看護ステーション「みつぎ」では、看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの専門職が医師の指示にもとづき、24時間対応体制をとり、自宅はもとよりサービス付き高齢者住宅・グループホームなどにも訪問しています。

訪問看護では

- ① 医師の指示による点滴・カテーテル管理（胃瘻など）・インスリン注射など
- ② 身体清拭・洗髪・入浴介助・排泄の介助・床ずれ予防や処置・薬の管理指導などの療養生活上の看護
- ③ 人工呼吸器・胃瘻・在宅酸素など医療機器管理
- ④ 小児や精神疾患・認知症などの看護
- ⑤ がん・難病など施設や緩和ケア病棟などとの連携による終末期ケア（在宅での看取り）
- ⑥ 拘縮予防や歩行、嚥下などの機能練習、在宅でのリハビリテーションなどを行っています。



在宅酸素の管理

また、医療ニーズをかかえて退院される利用者さま及びそのご家族に向けても、病院スタッフ・地域包括ケア連携室・ケアマネジャーなど多職種・多機関などと連携して相談や訪問を行っています。

小児から高齢者まで、安心して住み慣れた地域で生活できるよう、支援させていただきます。ぜひご相談ください。



訪問診療との連携



訪問看護ステーションスタッフ

●問い合わせ先 訪問看護ステーション「みつぎ」 TEL 0848-76-2811

公立みつぎ総合病院 ホームヘルパーステーション

ホームヘルパーステーションは、介護保険の訪問介護と介護予防訪問サービスを提供するとともに、障害福祉サービスである居宅サービスも提供しています。訪問介護は、利用者さまの「生活の支援」であり、利用者さまはもとより介護者の介護量軽減を図り、可能な限り居宅において自立した生活を営むことができるよう支援しています。他職種との連携を図り、利用者さまのニーズに沿い、24時間・365日支援を行なっています。



訪問介護スタッフ

●問い合わせ先 御調保健福祉センター内 TEL 0848-76-2235

ご意見、ご感想をお聞かせください

患者さまならびに地域の皆さまと共に作成したいと考えております。ご要望をお待ちしております。

TEL 0848-77-0955 FAX 0848-77-0956

E-mail: tiiki@mitsugibyoin.com

ホームページは「みつぎ病院」で検索

発行：尾道市立総合医療センター

公立みつぎ総合病院 広報誌編集委員会